

市長賞

(中学生の部)

立ち直る力

岸岸和田市立桜台中学校2年 松阪 颯希 さん

私は、少年が万引きをして捕まったというニュースを見たことがあります。そのようなニュースを見るたびに、「なんでそんなことしてしまったんやろ？」と疑問に思うことがあります。たしかに犯罪や非行を犯した人は間違っています。しかし、ある時、私は「犯した罪を償いそこから立ち直ることはできるのか？」ということについて考え始めました。そして、それに対する答えを探す中で、私は「立ち直る力」を持つ人々の存在を知り、自分の考えが少しずつ変わっていったのです。

あるテレビで、少年院に入っていた人たちが出てきました。その人たちは自分のしたことを反省し、今は働いているという話がありました。その人は、昔、家族とうまくいかず、学校でいじめられていたそうです。居場所がなく、悪い友達に誘われて、犯罪に手を出してしまったと話していました。でも、少年院で出会った先生やカウンセラー、ボランティアの人たちと心を通わせる中で、彼は反省の気持ちを強く抱くようになり、先生からの「君にも未来がある」という励ましの言葉で、自分を変えようと思ったそうです。

そのテレビを見て私は、悪いことをしたからといって、その人が一生悪い人というわけではないと知りました。むしろ、反省して、頑張って生き直している人たちはすごいと思います。そして、そういう人を信じて応援する大人がいることも、とても心に残りました。

私たちが生活する学校も小さな社会を形成しています。そこで嫌なことをしたり、悪口を言ったりして、相手を嫌な気持ちにになってしまう人もいます。その時に嫌な思いをした人だけでなく、嫌なことをしてしまった人にも声をかけていく必要があるのではないかと思います。

私は最近SNSで、「社会を明るくする運動」という言葉を知りました。これは、犯罪や非行した人が立ち直れるように、地域の人たちが支える運動です。私は最初、「犯罪を犯した人を助けるん？」と思いました。でも、立ち直りを応援することで繰り返さないようにできるし、その人も幸せになれるんだとわかりました。そうなれば、みんなが安心して暮らせる社会になると思います。

最後に私はこう考えました。立ち直ろうと頑張っている人がいたら、「どうせまた悪いことをする」と思うのではなく、「きっと変わる」と信じてあげることが大切だと考えました。そしてあいさつをしたり、話しかけたり、ちょっとしたことで応援できると思います。自分がされたら嬉しいことを、誰かにしてあげられる人になりたいです。

社会を明るくするということは、決して特別なことではないです。ひとりひとりの優しさや思いやりの積み重ねなのだと思います。私も、誰かの立ち直りの力になれるような人になりたいし、そういう人が増える社会をつくっていきたいと思います。そしてその希望を実現するためには、社会全体が一丸となって立ち直りを支えることが必要だと感じています。